

令和3年5月定例会 一般質問（内海久子）6月1日

1、（、知事への会派緊急要望に対する措置状況）

Q1、コロナ禍で困難を抱える女性に対する支援について具体的な支援事業を伺う

A、 府のドーンセンターで、民間団体との連携・協力のもと、同じ不安や悩みを抱える者同士が交流できる場の設置や相談体制の充実、必要な方に衣類や生活用品等の提供を7月から実施する。

Q2、「生理の貧困」として生理用品ですら購入できない女性の貧困が存在する。災害用備蓄物資の有効活用ができないか。

A、生理用品など更新期限の定めのない備蓄物資について、ルールを定めて定期的な更新を行うことが必要と考えており。更新時の既存物資の活用方法について検討を進めている。

早急に府が保有する備蓄物資の更新計画を策定し、有効活用に向けた取り組みを進めてまいる。

Q3、府立学校における災害用備蓄物資（生理用品）の有効活用ができないか。

A、教育庁としても、学校において必要な生徒に物資を配布

できるよう、方策を検討していく。

Q4, 「ひとり親家庭住宅支援資金貸付事業」を大阪府でも取り組むように要望したが検討状況を伺う。

A, それぞれの方に応じた適切な支援ができるよう、制度運用の詳細について府内市町村や事業の実施主体である大阪府母子寡婦福祉連合会と速やかに、調整していく。

2、流産・死産などによる深い悲しみへの支援（グリーフケア）

Q, 深い悲しみを抱える方に寄り添うグリーフケアを受けられる体制の整備をすることが必要ではないか。市町村、医療機関において当事者理解を深める必要があると考えるが、府の対応について伺う。

A, 流産や死産のグリーフケアに取り組む団体からヒアリングを行い、研修において、当事者の声を届ける。

3、Q, 肝炎ウィルス検査について、多くの府民に検査を受けていただくための取り組みを伺う。

A, 個別案内の送付、受診率向上の効果があった好事例紹介、各市町村の具体的取組を広く共有していく。

4、Q 宿泊療養施設の改善について、不安なく安心して過ごせるよう、療養上の情報を丁寧、確実に周知すべき

A, よりわかりやすくしおりに記載するとともに、入所の際、オンライン診療やこころの相談窓口等の案内など必要な情報を確実に伝える。

5、JR 学研都市線（住道駅～忍ヶ丘駅間）の高架化について伺う。

A, 大東市が事務局となって勉強会を4回開催し、今年度は大東市と四條畷市において事業規模や手法、まちづくりなどを検討する基礎調査を実施する。府としても市の取り組みを支援する。

6、Q, 地元大東市、四條畷市の飯盛城の国史跡指定に向けて

A, 今年1月に飯盛城の史跡指定に関する意見具申書を提出、国において文化審議会での答申が得られれば、史跡に指定される、例年は6月または11月に答申がなされる。

Q, 「飯盛城跡」の「保存活用計画」策定に向けて府の支援を伺う。

A, 府としても、有識者の指導をいただく委員会の設立や計画

策定の進め方についての助言を行うとともに、国庫補助金獲得のための国との調整等、積極的に支援してまいる。